

# 月刊原宿新聞

発行所  
月刊原宿新聞社  
本社/東京都渋谷区神宮前3-21-16  
NK-1ビル3階  
TEL03-3796-6865  
FAX03-3796-6815  
E-mail info@tltny.co.jp

## 留置場なぜ原宿に?

報告会に当局の明確な回答なし  
200人

原宿大規模留置場建設構想反対区民の会(佐藤健重会長)の第五回報告会が六日午後六時半から神宮前小学校で開かれた。

報告会には住民ら二百人が集まったほか、渋谷区から桑原区長、丸山議長、東京都から櫻井財務局長らが出席した。

報告会では過去二年間の経過が報告された後、東京都側は原宿署のほか、民間主導の商業ビル、住居ビル建設などの構想を明らかにした。

この後、意見交換会のなかで、原宿外苑PTA会長は「多くの方から反対の署名をいただきました。子どもを持つ親として学校の隣に留置場ができるのを不安に思うのは当然のこと。児童生徒の安全対策はどうか。さらに、原宿署が移転した場、学校との間に広場など何らかの形で緩衝地帯を設ける計画はあるのかなどを質問した。

これに対し警視庁の内山氏は「住民の方の不安感を払拭するためしっかりとした整備体制をとってまいります。さらに都側は「建設に関しては住民の方々の要望をできるだけ取り入れていきたい」との考え方を示した。

さらに一般質問である若い女性は「渋谷区の広報や民間の原宿新聞で三百人で都が提案、トーンダウンした報道があるのは遺憾。新留置場があるのは遺憾。新留置場は五百人程度の留置場なのになぜ原宿に六百三百人規模の留置場が必要なのか。もう一度原宿に立ち戻って欲しい」と指摘した。

最後に質問に立った井口青山大学教授は「東京都内で留置場がどのくらい足りないから、この程度の敷地を受け持ってもらいたいなどの大規模留置場は街にとって嫌悪施設。東京都全体で必要なのは理解できるが、なぜ



反対区民の会の集会

さらに留置場を建設することで原宿というブランドにどのくらいの損失を与え、国の治安対策としてどのくらいのプラスになるのか、具体的な原宿の費用対分析をだしてほしい」と提案した。

大規模留置場は街にとって嫌悪施設。東京都全体で必要なのは理解できるが、なぜ

相場で坪千五百万円もする場所に留置場なのかという疑問は依然として消えない。さらに三百人という数字は全国でも最大規模。行政当局は財政事情の悪化を再三強調。なぜ原宿に建設しなければならぬのか、との質問が相次いだ。明確な回答はなかった。

鈴木 青島 石原知事と三知事にまたがってはなし合われている社会福祉事業大学跡地問題。区民の会では再度、町内会などに経過を説明。意見を集約していく考えだが、住民側から行政側に宿題がでていることから、再度話し合いの場がもたれていくのは確実のようだ。

ようとしてイルミネーション五十一個を商店街、遊歩道の街路樹などに設置。クリスマスシーズンを盛り上げている。テーマは「ほのぼののふれあい商店街」。イルミネーションは、針金にビニールチューブを巻き、ランプをつけた手作り。オリジナルなもの。天使やサンタクロースなど思い思いのデザイン約六十種類。隠田商店会の三又路にはこのほど、巨大な富士山をテーマにしたイルミネーションが設置された。

## 社説

サイレント マジヨリテイ。声なき多数派という意味になるだろうか。

月刊原宿新聞を発行して四カ月が過ぎた。取材を通じて感じたことは、住民の代表者と呼ばれる人々と一般の住民との情報の格差だ。一般の人たちといつてもこの地域に住めるぐらいだから、それぞれ社会的なステータスも高いに違いない。ただ、その人たちの声が聞こえてこない。

留置場建設構想、イルミネーションの廃止など全国的にも話題になる事案に事欠かない。裏返せば、それだけ

## 是々非々論で街の将来を

話の一部の人たちの考えだけで決まってしまうものだろうか。

是々非々論。甚真相がつかない言葉だが、いい事は誰がいつても正しいし、悪い事は誰がいつてもおかしい。ディベートという土壌がない日本では、えてして問題の論議

原宿 表参道という街は全国的なブランドになった証しではなからうか。ただ、率直にいわせてもらえば、住民代表といわれる人たちのなかには、いまだにムラ社会の論理が横行しているのも事実。街の将来を左右する重要な

「あたかも三百人で決まったかのようなトーンダウンされた報道は心外」だと。彼女は至極当たり前のことを質問していたが、会場からは拍手がでた。

本紙は神宮前地区約一万世帯に全新聞に折り込み形

自身への疑問に答える形でこの新聞をつくりだした。本業は貿易会社の経営。巷間、揣摩測する人もいるようだが、スポンサーは自分の会社。狙いはさきほど書いたこと。広告料もいまはいただけない。将来、みんなが

必要新聞だと認めてくれた時にはちゃんとお金をいただくつもりだ。いらないものであれば、すぐに廃刊にする覚悟だ。

私たちの子どもたちもこの街の問題についてちゃんと向き合おう。大人たちの役目ではなからうか。サイレント マジヨリテイの声をききたい。それが願いだ。

## 都議選 津、村上氏が当選

東京都議会議員補欠選挙(渋谷区)が行われ、大津ひろ子さん(民主党、村上英子さん(自民党)の二人が当選した。選挙当日有権者数は、十六万九千九百五人。投票数は四万四千四百八人。棄権者数は十二万九千七百九十一人。投票率は二十三分の二だった。

大津さんは一万二千九百七十五票、村上さんは一万四千二百七十五票を獲得した。

## 隠田商店会がイルミネーション

隠田商店会(佐藤健重会長)は、街を訪れる人たちの目をたのしませるため、イルミネーションを設置する。

## 「ママの城」

催し物のお知らせ  
▼サッカーフェスティバル 2003 F.C.東京の協力による、体育室でのサッカーゲームや面白さを体験できるプログラム。十月十一日から十三日。対象は幼児から小学生までの男女。  
▼赤ちゃん大集合 パネルシアターや音楽遊び、親子体

## 操作ど。十月十九日。

詳しくは、「ママの城」へお問い合わせ下さい。住所 渋谷区神宮前5の53の1 電話番号03-3797-5666  
▼走れ! キャットストリート(ママの城) 毎月第一日曜日。自分の機嫌を持って行き、走らせることができます。十月十八から二十日。

確かな技術で応援します  
PCサポーターG.O.G  
**G.O.G**

パソコントラブル出張サポート/インターネット接続設定  
LAN構築など何でもご相談ください。  
0120-570-075  
G.O.G株式会社  
東京都千代田区神田駿河台3-1 日光ビル  
代理店:MMSいちかわ http://www.gog.co.jp/

## 森脇仁子税理士事務所

税理士 森脇 仁子

〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前1丁目10番11号 Park Axis 504  
Tel:03-5410-7533 Fax:03-5410-7583



青山店 店長 臼井 孝文

本店 Tel:03-3404-6003-03-3404-7024  
青山店 Tel:03-5785-4464

# 表参道にブランド店続々

## デイトールオープン前日に100人徹夜

表参道にクリスマスチャンデイトールの直営店が七日オープンした。オープン前日には寒空のなか、百人の徹夜組みが出たほど、人気ぶりをみせつけた。

建物は、地上四階地下一階。一階は、表参道限定のバッグが用意されたほか、アクセサリー、一階はジュエリー。三階には化粧品を揃えてい

る。さらに地下一階には、革ものを中心としたメンズ用品があり、デイトールの直営店で国内最大の品揃えがされている。敷地面積二百四十四平方メートル。延べ床面積千四百九十九平方メートル。

原宿は、本来原宿本店主義を標榜するデイトール原宿や若者を対象とした小さいながらも個性の店を中心とした表参道交差点から明治神宮に

向かう通りは、銀座につながるランド街に変わっている。一方、デイトールから原宿駅に向かう二丁目、三丁目あたりは依然として若者向けの個性の店が多い。ヘッドポーターなど連日行列ができる店も少なくない。

ブランド店に若者向けの店、表参道、原宿が今後どう変化していくのか、興味深いところだ。

おおよそ三百本のけやきをライトアップ。オレンジ色のライトがクリスマスシーズンの表参道を飾った。冬の風物詩にもなったイルミネーションが廃止になって五年。いまでも復活を望む声は大きい。なぜ全国的にも有名になった原宿のイルミネーションはなくなったのか。事情を聞いてみた。

イルミネーションは、バブル崩壊後の平成三年、原宿シャンゼリゼ会(現在榎谷圭司が主宰)が、夜間建物などをライトアップする手法は、海外では常識であるが日本では見分けのな試みであった。

経済状況の悪化に伴い原宿でも空き店舗、事務所が目立った時期。いまでは考えられないが、顧客を取り戻すいわば、復興の意味合いもあった。シャンゼリゼ会はスポンサーを募集。約一億五千万円の費用をかけていた。

おもな争点は、多くの観光客が表参道周辺に集まることから発生する生活環境の悪化。交通渋滞の激化。ごみの散乱。立ち小便や自然環境の悪化。イルミネーションの電線、電球を巻きつけられるケヤキの損傷が社会生活上受けずべき限度(多量)を越えており生活権、人格権、環境権及び土地建物所有権が侵害されたと主張した。東京地裁は平成十年十二月十七日、「本件においてはイルミネーションの設置、点灯と権利者が主張する具体的な切迫した程度にいたっていないと認め、この場合は困難である」とし、提訴を却下した。

# 原宿の元気な企業

「三百ドルからでもビジネスは始められる。広い視野を持ってチャレンジする気持ちで若い世代にアピールしたい。」

青木さんは早稲田の学生の頃、ビースポーツの仕事をしていたこともあり、世界のさまざまな国を旅した。本来アウトドア志向、おおよそ一か月かけて自転車や沖縄まで行ったこともあった。その頃の夢は青年海外協隊に入

り、発展途上の援助をする。発展途上の公團のベンチで昼寝をしていたところ、股にはきんでいたバッグが盗まれた。なかには大切にしていて二眼レフ一台

旅の途中、ベトナムの公園のベンチで昼寝をしていたところ、雨の日にもかかわらず十五分ほどで七個を売った。ジッポーを売ったお金を

業を始めた。アメ横、新宿表参道の露大商にも話をもちかけた。だが、相手は商売のプロ。なかなか言い値では買ってくれない。そこで、フリーマーケットにだしたところ、雨の日にもかかわらず十五分ほどで七個を売った。ジッポーを売ったお金を

# 転機は50個のライター

## 株式会社リラックス社長 青木 陽介氏



やる気で決まる一と青木さん

とコンパクトカメラ二台が入っていた。残ったのは所持金三百ドルとパスポート。悲嘆と悔しさのなかで何かで元をとれないかと考えた。うだ。たまたま日本の雑誌記者と知り合いになり、ベトナム戦争で使用されたシンポールのライターが日本ではやっついていることを知った。

早速、現地の店を回ったところ、六、七ドルがとおり相場。日本での流通価格は二万円くらい。五十個ほど買ひ込み帰国。みょうみまねて

握り、再び香港、バンコクなどに飛び、時計、ロシア重砲の商売などを買い込んだ。友人の父親が喫茶店を経営。駐軍場を貸してくれるというので、ライターショップを開店。もの珍しさもあって結構繁盛した。その後は七坪ぐらいの店を開き、アディダス、ナイキなどの靴を売っていった。雑誌社の目にとまり、ブーンに紹介された。雑誌発行後は、一日電話が鳴りつばなして、あつた。五十個分のジッポーの販

住まいは世田谷、朝八時から午前二時くらいまでの仕事が続いているので、帰るのもつたいないという。結婚する暇なぞないらしい。「いま国内だけを見てみると閉塞感でいっぱい。視野が狭くなる。何をやって日本では生きていけるか、チャンスはいっぱいあるはず。やる気の大ささで決まるのではないですか」と青木さん。夢は模索中。趣味はバイク、キャンプと旅行。三十五歳

# 何故…なくなった?

## 原宿のイルミネーション

この風潮に嫌気をさして協賛していたスポンサーがお断りした。というのが廃止にいたった実情のようだ。確かに環境問題はあるかもしれないが、イルミネーションの実施に関しては、いまだに復活を望む声が多いのも事実。果たして廃止は住民の総意といえるのだろうか。街の活性化をめざし始まったイルミネーション。それを非とする運動とはいかなるものだろうか。この時期に再び事の是非を考えてもらいたい。

JAZZ HOUSE  
**灯屋**  
AKARI-YA  
東京都中野区中央4-26-10 東豊マンションB1F  
Tel:03-3380-6281

**AIR PRESS**  
Celebrity  
Medical Relaxation & Anti-Aging Salon  
エアプレス セレブリティ  
代表 町田 典隆  
〒107-0061  
東京都港区北青山3-6-20 青山T&E 7F  
Tel:03-6419-2880 Fax:03-3499-2227  
E-mail:airpress-celeb@viola.ocn.ne.jp

霧島地鶏焼き  
**きばんせ**  
東京都渋谷区神宮前2-21-12  
Tel:03-3796-8788